常磐タイムス

發行日　毎月十日　二十五日
定價　一部　金十錢
發行兼編輯印刷人　高橋竹四郎
發行所　福島縣平町鍛冶町二五　常磐タイムス社

光榮に輝く

「天杯下賜」は

郷黨の誇りと

町有志の發起で山崎氏の爲祝賀會を開催

石城郡聯合在郷軍人分會長山崎清三氏は、勅諭御下賜五十周年記念式典擧行に際し軍事特別功勞者として畏くも天杯を下賜された事につき地方民は鄕黨の榮譽であるとなして平町有志一同並に藤田平分會長、平青年團長多々井笑次郎氏等發起となり去る十四日午後三時より住吉屋本店にて、祝賀會を開催した。

常磐炭礦界の成功者

杉山今朝吉君の

○…人格と其の事業を賞揚す

事業家としての

……杉山君……

一見して其の人格の高潔さと、深慮に富む紳士なるを知らるゝ常磐炭礦界の麒麟兒、杉山今朝吉君は秋田縣の素封家に人となり、幼にして聰智、將來を尤も矚望されてゐたが果たせる哉、青年に達するに及んで、遠大の志圖遂に押へ難く決然として鄕關を出ずるや、世相の凡る苦艱と闘ひつゝ涙ぐましき迄の努力は克萬難を征服し、益々其の識見と手腕との發揚は相俟つて炭礦界より至大なる信頼を博するに至り、現在の礦山を選採し杉山炭礦の名目のもとに着炭に從事するや氏の先見は、遂に誤る處なく、常磐炭礦界切つての最優良炭を多量に搬出するに至り氏は業界に於る最必なるべき取引上に關する信用向上に專心努力を怠らなかつた結果として今日の大成を見るに至つたが、尚ほ進んで斯業界の王者たらんとして日々夜々奮闘を續けてゐる

軍人分會長としての

……杉山君……

事業家として前述の如くであるが亦君は軍人として、大内鄕村の分會長に大衆より仰推さるゝに至るや、由來溫厚にして而かも、半面剛直なる氏は、國家的大觀の概念に立脚し飽くまでも世界に忠勇を誇る日本軍人精神の益々發揚せらるゝ事に寢食を忘れて努力を惜ます多繁なるべき事業を顧る遑なき迄で熱心に在鄕軍人の精神向上に努めつゝある。結果として、其の軍人精神統一の立派なる美点に於て他村の模範として賞讃を欲まゝにしてゐる。

趣味としての

……杉山君……

君は至つて趣味の少ない方であらふが唯、一つ砲術に至つては既に名人の域に達して居り縣下でも福島市の倉島君と一位を爭つてゐる

信仰に生きつゝある

……杉山君……

氏の信仰心の厚い事は今更事新らしく云ふ迄もない。信念に生きて居ればこそ、あれだけの人格も保つことが出來、亦分會長として彼れだけに精神統一を圖る事が出來得る次第であつた。事業家としての重信も得られてゐる理である。神詣りとしての一例を擧げて見る氏は必ず年に何回かは木曾の御嶽山にお詣りをする時恰かも彼れ丈けの事業家として頗る繁用なる場合があつても、その期日には滊車中に一夜を明し、彼の劒山を攀らてその日の內に歸礦するそして決して疲れた色も見せない。即ち『お疲れでせう』と云へば平然として、異る處なく信念の力は偉大なるものですと唯一言あるのみである。

因に本社は、氏の敬神談を冊子として近刊することにした信念に生きむとする者の必ず一讀に價ひするものであらふ。

大御所

小野晋平氏の努力は

愈々大小名濱を實現するに至らん

由來、小名濱町は本縣に於ける關門港として「平千軒小名千軒」としてその繁榮さを並稱されてゐたが海よりの文明は一時、山よりの文明に先を越された感があつたことに奮然として立つた小名濱町の大御所として自他共に許るされてゐる小野晉平氏は始むと餘財共に惜む所なく大奮闘を血涙と共に續けて來ただその効果は報えらるゝに至り、小名濱大築港の出現となり、今日に及んでゐるが、此の間迂餘曲折を見るありて寢食を忘れて苦心に苦心を重ねつゝたが遂にその大努力は敢然として來報するの期に達し繁盤なる大小名濱の實現も近き歲月を數ふるに至り、町民は擧つて同氏の功績を賞揚しつゝあるが今回港灣の事物研賛をなすべく町會議員同伴の上關關西方面の港灣視察に上つた由であるが歸港の曉は大なる益資を齎らすことゝなるであらう。

是々非々！

博覽會も無事に閉幕を告げた、何より結構——慶賀に堪へない、關係諸氏の努力亦多々あるものを憶ふ。

◇……◇

近來平町の二三商店に洋服を一着に及んで、大きな面付きをして飛び歩いてゐるものを見る、商營上の輕裝も亦結構ではあるが、ナンニモ洋服を着たからと云つて首を上に向けて威張る理由もあるまいて……ソウ云ふ思考で將來が寒心に堪へない。今頃はクサミでもしてゐるだらう……。

◇……◇

商店主が如何に敏才でも使用人がオジウヽでゐるとか無愛想では評判が惡るくなる。

現在三丁目の小間物屋に近來不評の高まつて來た理由を主人公榮華の夢から醒めて再考せよ。

◇……◇

無盡會社と云ふものは、金融機關上まことに結構な事其ではあるが、要するに信用第一として多衆より尤も信用を受けねばならぬ事業であるにも不拘、近來なか〱手を延ばしつゝある某會社？？商會の外交員の或る者の如き口より出任せの引入勸誘をし歩るく奴があるソウだ、命から二番目の金を賴むんだもの加入者よ……總てに自重して後で首とつり換への印を押すべしだ。

會長とか社長とかいふ野郎君のウンダ柿のつぶれた理のわからぬツンボ蟬見たような態度にも呆れる。へタ間誤ついて、小便をシユーとやられぬ樣……注意が、肝要々々。

◇……◇

平警察署員一同の評判が頗る良い、揃へも揃つて親切味に富んでゐる即ち町民との接觸が圓滿に運んでゐる事が何よりの證據と云ふべきであらう、伊藤署長は永らく浪人として平町に住居町民の氣分を味ふ事も出來味ひ來つた事が非常に町民の心裡　合致してゐるように思れるのであつて將たり卒たりといふ原動力を生んだ事になると云つてもよからう。

特高課お役人等實に民衆化してゐる間に直に細心なる注意を怠らない。近時磐城地方等泰山鳴動して鼠一匹出ずといふ温流の漂よう樣を見ても瞭察される理であらう。

晉々一身を華道に精する

横山美聲女史

敢へて華美を飾るにあらざれども花に親しみ花に生きつゝある美聲女史は天與の美貌と花の如き優心とは克く多くの子女をして、此の「先生こそは」との快感を懷つかしむるに足るものがある。

常に〱斯道に對する研究心の向上は斯の巨匠をして益々大ならしめてゐる。女史は常に云ふ『斯道の師として多くの子弟を敎授して居りますが私は花に親むでゐる間は、コレデモアレデモと一枝に對しても研究心に燃いて居ります故に或は矢ヶ間敷しい事ばかり申す樣になつて失禮だと思ふ事さいも往々ありますが自然お弟子の方も興味を持つて進んで研究して頂く樣になる樣です、要するに萬人の方々にその床しい嗜みを見て頂くことになる理であります……』女史は實際言行一致で進んでゐる。

亦女史の美点とも推賞するに足ることは平素に於ける生活振りの一事である、女史として現在多數の子女を敎養しつゝある關係上相應に贅澤も出來得る理であるが絕對に質素を旨として居られる、それは將來家庭の上に主婦として立たれる多くの子女に對する一面儉素涵養の範ともなるべく隱れたる敎養を施してゐられる擧に基因もされよふし亦先生自らが冗費が掛り過ぎるようでは自然補足上面白くない結果を生ずるといふ事にもなる理由にもよることでもあると思はれるのでるから敎授を受ける者としてもいつも飽きが來づに斯道に精進することが出來る事が嬉れしい次第であり得よう。今や女史の總べてに於ける美風は遺憾なく斯道に志す人々の心裡に快感を與へつゝある顯表として星數の子弟を抱擁して即ち先生としての名を耻かしめず今日の盛因を招來してゐる

◎平町を紹介する二小冊子

平町案內　一部定價　三〇錢
平町地圖　一部定價　三〇錢

（發賣所）
マルトモ柴田書店
電話二三四番五九七番